

第2回藝能史研究會東京特別集会の御案内

藝能史研究會では、12月9日（土）に第2回東京特別集会を開催いたします。

今年度は「**藝能史研究からの絵画史料論再考**」をテーマとしたシンポジウムを、下記の通りオンラインで開催いたします。多数の御参加をお待ち申し上げます。

記

日 時：2023年12月9日（土）午後1時～午後5時

開催方法：Zoomを用いたオンライン開催

参加費：無料

参加資格：参加自由

シンポジウム「**藝能史研究からの絵画史料論再考**」

*プログラム（予定）

- 13:00～13:05 開会挨拶
- 13:05～13:25 問題提起
西山 剛氏「**芸能空間としての社頭と河原 絵画史料の限界と可能性**」
- 13:25～14:25 辻 浩和氏「**中世絵画史料に描かれた歌舞**」
- 14:25～14:35 休憩
- 14:35～15:35 藤原 重雄氏「**歴博甲本「洛中洛外図屏風」に描かれた犬馬場の位置**」
- 15:35～16:55 全体討議（進行 西山 剛氏）
- 16:55～17:00 閉会挨拶

企画趣旨

—— 芸能史研究の方法として、絵画史料はどのように生かしていけるのか

近年、e 国宝、文化遺産オンライン、ジャパンサーチ、また国内外の博物館・美術館のウェブサイトなどで膨大な数の画像が公開され、無料かつ簡便に利用できる環境が整った。このような状況の中、最近にいたっても絵画を歴史史料として活用する研究は活況を呈しており、さまざまな分野において魅力的な成果が生み出されている。しかしその一方で、安易な絵画の利用による誤解の可能性も同時に高まっているといえる。

芸能史研究会では、芸態論をはじめとして、絵画を積極的に用いて研究をおこなってきており、会誌で過去 2 回に亘って特集を組んだこともある。研究環境の劇的な変化のなか、現段階であらためて絵を読む（歴史史料として絵画を用いる）とはどういうことなのかを考え、芸能史研究の観点から絵画史料の活用の可能性を模索してみたい。

参加方法

① 芸能史研究会ホームページの「東京大会」のページに、「Zoom」アドレス・発表資料を掲示します。クリックしてご参加ください。「Zoom」は 12 時 30 分から開始します。

芸能史研究会ホームページ URL : <http://www5b.biglobe.ne.jp/~geinoshi/>

② オンライン会議アプリ「Zoom」を使用します。参加には、マイク・スピーカーが内蔵されている、もしくは外付け可能なパソコン、タブレット、スマートフォンなどの機器と、インターネット環境が必要です。

※ スピーカーのあるパソコンで、インターネット環境があれば比較的簡単に参加できます。

※ 目安としては、通常 1 時間当たり 100MB 程度の通信量となります。通信費以外の費用はかかりませんが、Wi-Fi での接続をお勧めいたします。

③ 「Zoom」のダウンロード方法、使用方法、セキュリティについての個別の問い合わせには、お答えしかねます。恐れ入りますが、各自で環境を整えたうえで、ご参加くださいますようお願いいたします。

④ 当日の録音・録画（スクリーンショット、動画キャプチャー、写メ等）はご遠慮ください。配布資料等の無断複製、SNS・ウェブ等への掲載もご遠慮ください。また配付資料等の新聞・雑誌への掲載につきましては、事前に事務局までご連絡ください。

なお、主催者の芸能史研究会が記録用に録画します。あらかじめご了承ください。

■ 芸能史研究会

〒 602-0855 京都市上京区河原町通荒神口下ル上生洲町 221 キトウビル 303

電話・FAX : 075-251-2371 メール : geinoshi@mvd.biglobe.ne.jp

(事務局業務日 毎週火・金 午前 10 時～午後 4 時)